

足立区生物園「モルモットふれあい」における モルモットのストレス測定および職員の声かけの特徴

帝京科学大学アニマルサイエンス学科
矢代浩平 並木美砂子

A モルモットのストレスチェックについて

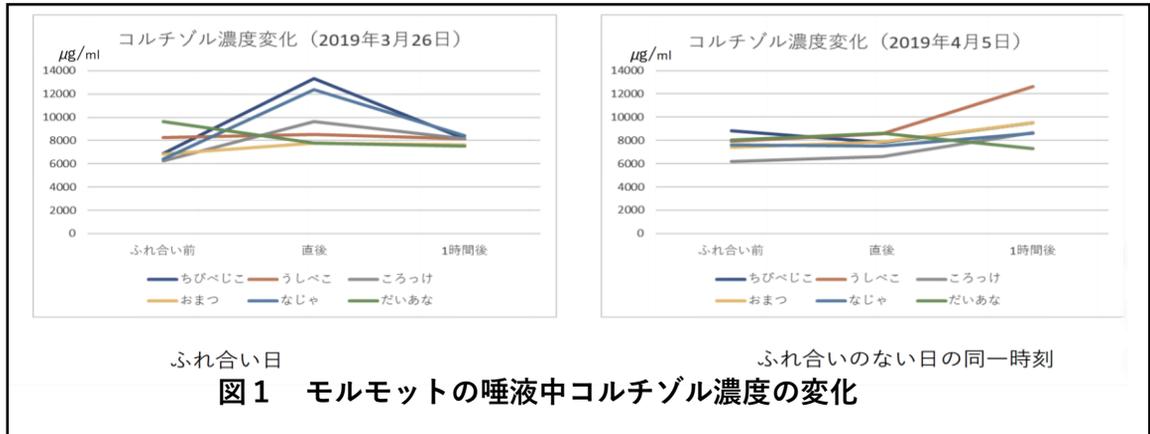
目的：ふれあい活動に参加するモルモットは、参加しないときと比べてストレスはどのくらい感じているかを把握する。

方法：同一個体で、ふれあい参加「前」「直後」「1時間後」について唾液中コルチゾル濃度の変化を追跡する（時間的変化）。

また、同一個体、同一時間帯での唾液中コルチゾル濃度の変化を「ふれあい参加日」と「ふれあい不参加日」間で比較する。測定日は、2019年3月24日と4月5日であった。

結果：5個体中3個体はふれあい直後に濃度が上がるが、1時間後はふれあい前とほぼ同じ濃度になった。②ふれあいのない日は、あまり変化がないものの、濃度上昇が認められた個体が3頭であった（図1）。

考察：一時的にふれあいがストレスをかけているが、それは1時間で戻る。むしろ、休園日にストレスを感じている個体がいることから、休園日の飼育環境下での行動観察も必要に思われる。



B モルモットふれあい時の職員の声かけの特徴について

目的：ふれあい活動においては職員が参加者にどのような働きかけをしているかが重要である。参加者が幼児などの場合は、伝え方にも気を配る必要があると考えられるが、実際に現場ではどのような工夫がなされているかを知る。

方法：生物園の通常のふれあい活動時に、職員にICレコーダーをつけて音声を記録し、その内容を、使用単語の頻度から把握する。

結果と考察：発話採集は5月12日に行い（60分）、発話を品詞に分けて出現頻度を算出したところ、名詞ではモルモット・ごはん・お口などが多く、動詞では「くださる・触る・座る・もつ」などが多く、形容詞その他では、「すごい」などの感動に関することや「小さい」など動物に関する表現、そして「ありがとう・すみません」が多かった（表1）。全体としてモルモットという動物についてよりも、「接する際の指示的な言葉」が多かった。身体の特徴や行動についての紹介は年齢の関係で低かったものと考えられる。

謝辞 調査をすすめるにあたり、園長はじめ職員のみなさまにはたいへんお世話になりました。深く感謝いたします。

表1 ふれあい活動時における職員の発話の品詞別出現頻度

名詞					
10回以上	モルモット	ご飯	背中	お口	
7-9回	お願い	粒	抱っこ	動物	
4-6回	コップ	お客様	膝	タオル	向き
動詞					
10回以上	くださる	触る	座る	あげる	入る いただく もつ
7-9回	立つ	食べる	待つ		
4-6回	並ぶ	詰める	もらう		
形容詞					
4回以上	すごい	いい	いたい	小さい	
挨拶用語					
10回以上	ありがとう	どうぞ	すみません		